



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内281)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 536
発行責任者	所長 橋本 勇治
発行日	平成29年11月10日
題字	山田 恭正 教育長

やる気「ムンムン」の小集団学習

土岐市教育研究所長 橋本 勇治

先日、学校訪問をさせていただいた中学校では、小集団（班やグループ）による学習活動を意図的に位置付けた授業が数多く行われていました。学習課題を班で協力して解決する場面がありました。きちんと役割を分担して、班員4人の追求（作業）の結果が自ずと解決につながるよう仕組みられているように見えました。各班、そして班員一人一人が目的をもってバリバリ取り組んでいきます。代表として選ばれた班は、黒板を作業場にして、結果だけでなく、追求の過程も披露していました。「ムンムン」のやる気とピリピリした緊張感が伝わってきました。また、班内で話し合った内容を個人の足場にして、その後の全体交流の中で積極的な挙手発言につなげるという、定番の学習活動もありました。所期の目的が見事に達成され、生徒が主体的に挙手し、発言する姿を目の当たりにし、思わず口元がゆるんでしまいました。

もちろん、音楽授業で自由闊達に思いをぶつけ合う合唱のパート別練習や保健授業での向学心に満ちた少人数での課題解決的な学習、理科授業のけれん味など微塵もない和気があふれるグループ実験など、実技や実験実習を伴う教科においても、当たり前のように小集団学習が行われていました。「言語活動を充実し、自分の考えや思いを伝え合ったり、課題を解決したり、認め合ったりする『表現活動』や『話し合う活動』を充実する」ことに重点を置いてきた、この学校ならではの、意図性とこだわりがひしひしと伝わってきました。

中でも秀逸だったのが、「おでかけ（ジグソー）追究」と名付けられた国語の小集団学習でした。遠慮もてらいもなく、自然体で、素直な話し合いができていな、と思いきや、おもむろに先生が「移動」を指示され、生徒たちが、「元」のグループに戻っていったのでした。

「えっ、自分のグループじゃなかったの？」とびっくりしましたが、もっと驚いたのは、違和感や停滞のない生徒の動きでした。他人の席に座っている姿も、誰かが座っていた自分の席に戻るときも、実にスムーズでした。国語の本質とも、少

人数学習の適否とも無関係で恐縮ですが、全くもって当たり前のこととして、生徒たちが分け隔てや差別なく、相互に座席を貸借する自然な姿に正直驚き、また、妙に安心感を覚えたのです。

また、私の恥ずかしい経歴を露呈することになりますが、担任した学級の中には、互いの人権を尊重するという、この「当たり前」さえも心許ない学級がありました。同じ学級の仲間でありながら、座席の貸借などもってのほかで、強行すれば必ずトラブルを誘発しました。担任の権威でそれを阻止しても、一人一人の深層にまで届く指導ができません。人知れず悲しい思いをしている生徒が少なからずいることを知っていながら、手をこまねくしかなかった当時の自分を今更ながら恥じて、自責の念にとらわれるのでした。そして、今は、ただただ、当時の生徒への謝罪の気持ちでいっぱいになるのです。

回顧の中、苦い気持ちになりながら参観した私を励ましてくれたのは、自分のグループへ戻って自席に座った生徒たちの屈託のないニコニコの笑顔と、それを歓迎するグループに漂うポカポカの温かさでした。感謝せずにはいられない、そんな気持ちにさせるひとときでした。



『団の仲間とともに』

撮影者 西陵中学校

福田 辰雄 先生

今年の4月から、東濃子ども相談センター（児童相談所）で勉強させていただいています。これまでに深刻な社会問題として取り上げられた児童虐待のニュースはよく耳にしていましたが、あまり身近な出来事とは感じていませんでした。しかし、わずか数か月の勤務経験にも関わらず、この東濃地区にもたくさん子どもたちが虐待に苦しみ、また、法に基づいて救われていることに驚いています。

調べてみると、県内5カ所にある子ども相談センターが児童虐待を相談対応した28年度の総数は1,004件（東濃地区の対応総数は149件）もあります。そのうち身体的虐待が400件、心理的虐待が380件、ネグレクト（保護者の怠慢・拒否）が201件。このほかにも性的虐待（23件）もありました。主な虐待者は「実母から」が最も多く540件（53.7%）、次いで「実父から」の虐待が343件（34.2%）となっています。

虐待を受けた子どもたち（被虐待児童）の年齢層は「7～12歳」が407件（40.5%）と最も多く、次に「3～6歳」が237件、3番目に「0～3歳未満」が158件。虐待を受けた子どもたちは、人間不信・低い自己評価・孤立・感情コントロールの障害・愛着障害・自傷行為などの問題をかかえることがあります。また、虐待する親に恐怖した子どもはSOSを発せなくなることがあるようです。こういった子どもたちを救うためには、すべての子どもに関わることのできる保育園・幼稚園や小中学校の職員の皆様の発見や対応がとても大切になることがわかりました。児童虐待防止に関連する各種の法制度によると、学校及び教職員は虐待の早期発見の努力義務や関係機関の通告義務などの役割が課されています。でも、実際に虐待の疑いありと判断したとき、学校はどのように子どもを守っ

たり、その保護者に対応をしたり、外部機関とつながったりしていけばよいのでしょうか……。誰もがとても不安になってしまいます。

よいものがあります。インターネットで「研修教材 児童虐待防止と学校」と打ち込んで検索し、文部科学省のホームページを閲覧していただくと、PDFファイル形式で虐待発見時の学校対応の大切なポイントを確認することができます。一度ご覧になってください。

また、児童福祉法の改正によって、市町村と県（子ども相談センター）の対応や役割が明確に示されています。学校が虐待と思われる児童を発見したときに外部機関に連絡をとる際には、「在宅における指導・支援が検討される場合は市町村へ」、「専門的な技能や知識が必要な事案や一時保護・施設入所が検討される場合については子ども相談センターへ」を基準に判断していただけるとよいです。ただし、虐待に関する連絡はすべて通告となります。判断に迷うケースがあるときには、事前に市の教育委員会を通じて、子ども相談センターに相談することができます。

一方、当然のことですが、教育機関は保護者を虐待者として通告することへの抵抗感があります。また、虐待事実についての確証がないことや、保護者との関係悪化の不安などから、通告へのためらいが生まれることもあります。しかし、虐待は保護者と子どもの利害対立ではありません。通告は、子育てをする保護者を含めたすべての人を救うことにつながるものと考えています。そして、子どもに関わる機関と機関がうまくつながって、虐待から子どもたちを守っていくことができればと願っています。

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要

- (1) 調査の目的 児童生徒の学力・学習状況の把握と学習指導の改善を図る。
- (2) 調査対象 土岐市内全小学校8校の第6学年児童(468人)
土岐市内全中学校6校の第3学年生徒(480人)
- (3) 調査内容 学力に関する調査(国語、算数・数学)、生活と学習に関する調査
※本調査で明らかに出来るのは、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面についてである。
- (4) 調査日 平成29年度4月18日(火)

2 土岐市の現状

(1) 学力について

<小学校>

*全国の正答率と市の正答率の比較 A【基礎的知識】に関する問題 B【活用の力】に関する問題
(◎:大きく上回る ○:やや上回る □:ほぼ同じ △:やや下回る ▲:大きく下回る)

国語		話す・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
	A	○	○	□	△
B	□	□	□		
算数		数と計算	量と測定	図形	数量関係
	A	△	△	▲	□
B	□	▲	□	□	

- ・国語A,Bともにほぼ全国平均である。平成27,28年度と比較すると、国語Aの「話す・聞くこと」「書くこと」においては、全国平均をやや上回るが、ことわざの意味を正しく理解して自分の表現に用いたり、漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。
- ・算数A,Bともに全国平均をやや下回っている。平成27,28年度と比較すると、特に算数Aは全国平均との差が開いている。立方体の面と面の位置関係を理解したり、仮の平均点を用いた考え方をを用いて解いたりすることに課題がある。

<中学校>

国語		話す・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
	A	○	○	○	□
B	□	□	○	○	
数学		数と式	図形	関数	資料の活用
	A	□	□	□	△
B	□	□	□	□	

- ・国語A,Bともに全国平均とほぼ同じか、やや上回っている。特に国語Aは、平成27,28年度と比較すると正答率が向上している。相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるよう工夫して話すことに課題がある。
- ・数学A,Bともに平成27,28年度同様、全国平均とほぼ同じである。関数を活用して解く問題がよくできている。資料を正しく読み取って解答することに課題がある。

(2) 学習や生活に関する習慣と意識について
 <小学校>

全国平均より高い質問	全国平均より低い質問
<ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活を送っていますか。 ・地域の行事に参加していますか。 ・地域をよくするために、何をすべきか考えていますか。 ・読書が好きで、学校や地域の図書館へよく行きますか。 ・授業で友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか。 ・ノートに学習の目標とまとめを書いていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で新聞やニュース番組を見ますか。 ・計画的に家庭学習をしていますか。 ・家で学校の宿題や授業の予習復習を行っていますか。 ・学校に行くのは楽しいと思いますか。 ・授業で、自分の考えを他の人に説明したり、書いたりすることは難しいですか。

・地域行事に対する関心が高く、地域とかかわりながら生活している児童が多い。
 ・家庭での学習時間は全国平均を上回っているが、宿題や授業の予習復習を、家庭で計画的に取り組むことについて課題がある。
 ・授業では、課題に対して自分の考えをもって友達との話し合い活動によって学びを深めようとしている。その考えを相手に正しく伝えることに難しさを感じている。

<中学校>

全国平均より高い質問	全国平均より低い質問
<ul style="list-style-type: none"> ・地域でボランティア活動に参加したことがありますか。 ・人の役に立つ人間になりたいと思っていますか。 ・家で、学校の宿題や授業の予習復習をしていますか。 ・学校が休みの日に勉強をしますか。 ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。 ・授業中分からないことを誰かに尋ねて解決しますか。 ・学校で友達に会うのは楽しいですか。 ・学級みんなで何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家で新聞やニュース番組を見ますか。 ・携帯電話やスマートフォン使用について、家の人との約束を守っていますか。 ・よく読書をしますか。 ・将来の夢や希望をもっていますか。 ・家の人と将来について話しますか。 ・自分にはよいところがあると思いますか。 ・学校の規則を守っていますか。

・家庭学習において、計画的に予習復習などを2時間以上取り組んでいる生徒が多い。
 ・仲間と協力しての話し合いを大切にしながら取り組める生徒が多い。
 ・学習課題に対して、仲間と共に主体的に取り組む生徒が多い。(わからないことがあるとそのままにせず、解決しようとする。)
 ・家庭での学習習慣が身につけているが、将来の目標をもてずにいる。

3 今後に向けて

土岐市の学力が高まっている基盤

- 生活習慣において
 - ・基本的生活習慣の定着
 - ・社会参加、社会貢献に対する意識の高さ
- 授業について
 - ・自ら考えをもち、積極的に取り組もうとする意欲
 - ・最後まであきらめず、課題を解決したり理解したりする、児童生徒の意識の高まり
 - ・学習内容を振り返る場の設定
 - ・個の実態に応じた支援の工夫
- 家庭学習について
 - ・家庭学習の時間の確保

土岐市の学力をさらに高めるための方策

- 生活習慣において
 - ・情報モラル教育の充実
- 授業について
 - ・子どもの主体性を大切にした学習指導
 - ・表現力の向上を目指した指導、援助の工夫
- 家庭学習について
 - ・計画的な家庭学習の取組の推進(予習復習等、学習内容の充実)
 - ・図書や新聞の活用、読書活動の充実
- その他
 - ・キャリア教育の充実

学力向上推進に関する実践の紹介

学力向上企画委員 泉中学校 早瀬 浩孝

多治見市と土岐市の合同で行われた第3回学力向上推進委員会において行った、泉中学校の実践発表について報告する。

1 学力向上推進組織について

泉中学校では、学力向上における「指導プラン作成」「授業改善」「学習集団の育成」を3つの柱として捉え、それに対応させた研究チームを編成している。研究推進と学力向上推進とが連動し、全職員で組織された研究体制となっている(図1)。今年度の研究主題は「練り合い高め合う生徒の育成～主体的で深い思考のある授業の創造～」である。さらに、「教科の本質を踏まえ、深い思考のある授業を工夫することにより思考力を高める授業、高めた思考力が、判断力や表現力につながるもの」とらえる」を学力向上推進の視点として位置付けている。全教師が、学習プランチーム、授業改善チーム、学習集団チームの3つのチームにそれぞれ所属し研究に向かっている。このように、全教師が研究推進及び学力向上推進の取り組みにかかわることができる体制となっている。

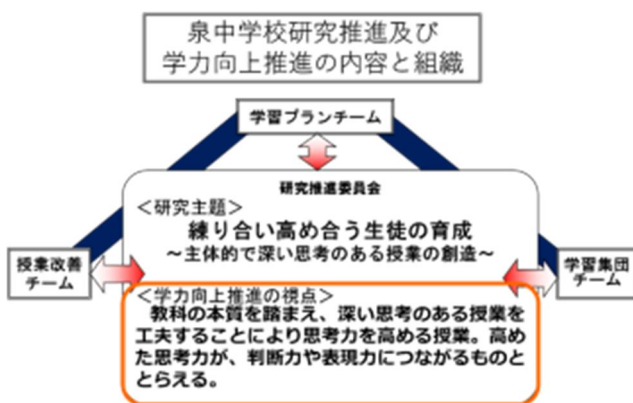


図1

2 生徒と共に創る授業

生徒たちは4月に各学級で目指す授業の姿を話し合い、学習目標を設定している。また、学習目標に照らした評価項目を設定し、授業創造発表において生徒が自分たちの学級の授業を公開する。

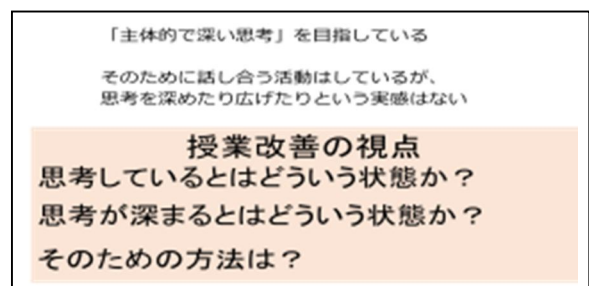
授業創造発表は、教師側の意図する研究授業ではなく、生徒が自分たちの学習に向かう姿を主体的に公開するという主旨となっている。授業改善に向かう教師の取り組みと、自分たちの授業を大切にしている生徒の取り組み、両面から学力の向上にかかっている(図2)。



図2

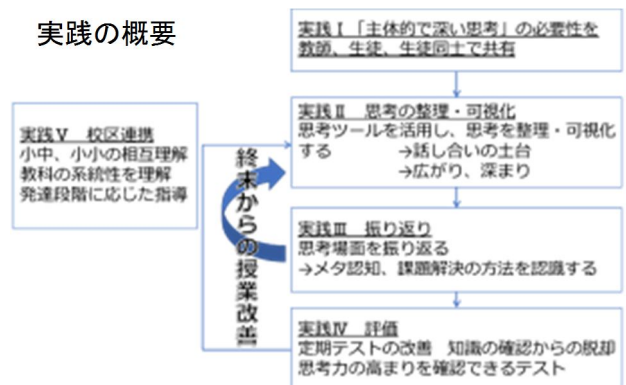
3 実態把握をもとにした課題の生成

4月に行われた全国学力学習状況調査の生徒質問紙と学校質問紙の結果を分析した。研究主題にかかわって、「授業では話し合う活動をよく行っていたと思う」と「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできている」の2つの質問に着目した。その結果、「話し合う活動をよく行っている」という回答は多いが「自分の考えを深めたり広げたりできた」という回答は、生徒も教師も少ないことがわかった。そこで以下の視点で授業改善を進めようと考えた。



4 実践の紹介

実践の概要



(1) 実践Ⅰ「主体的で深い思考」の必要性を教師、生徒、生徒同士で共有

4月、昨年度の全国学力学習状況調査のB問題1問を生徒に解かせ、自分たちにはどんな力が必要なのかを考えさせた。生徒からは次のような意見が挙がった。

- ・問題を読み解く力
- ・説明する力
- ・相手の考えを知る
- ・数学でも文章を読む力が必要
- ・他の教科の力も必要

教師が必要だと考える力だけでなく、生徒自身がどんな力が必要かを考えることで、学習目標設定の足掛かりとした。

(2) 実践Ⅱ 思考の整理・可視化

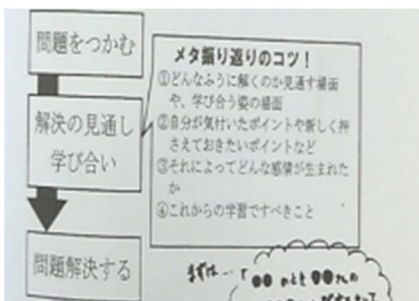
話し合いの中で考えが深まったり、広がったりできていると実感するには、考えた跡が残っている必要があると考えた。図3はYチャートを用いて見方を分けて考えた場面である。このような思考ツールを用いて思考を整理・可視化することで、自分自身で自分自身の考えがわかり、他者の考えもわかり、さらにそこから新しい考えを生み出す(深まりや広がり)ことをねらった。



図3

(3) 実践Ⅲ 振り返り(終末からの授業改善)

単位時間の授業の振り返りの場面において、「なぜわかったのか、どうやってわかったのか」等を



記述することで、生徒が自分自身の学びを確認することができる。思考を整理・可視化した場面を振り返ることで、振り返りの記述内容がより充実することがわかってきた。

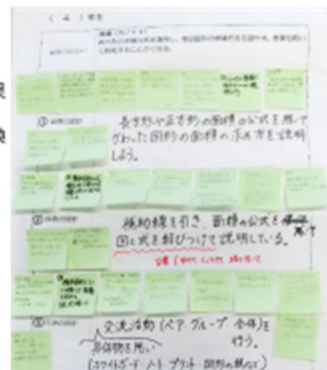
(4) 実践Ⅳ 評価

中間テスト、期末テストにおいて、全国学力学習状況調査のB問題を意識した問題を出題し、その回答状況を分析した。記述式の問題において、書き出しの指定や使用語句の指定があるほうが、回答の状況がよい傾向がみられた。ヒントがあれば回答できる生徒がいることから、どのようにしてそのヒントを見つけるかを、授業の中で指導する必要性を感じた。

(5) 実践Ⅴ 校区の連携

泉校区の教師が集まって夏休みに研修を行った。まず、新しい学習指導要領や全国学力学習状況調査の結果をどのように活用するのかを学び、ワークショップ形式で夏休み以降に行う授業場面の設計をした。この研修では、学習内容の系統性の理解や、教師同士の相互理解、共同的に授業を創ることを学んだ。

- 泉3校研修会
- ・学習指導要領の改訂と「資質・能力」の育成
 - ・「全国学力学習状況調査」の結果を活用した授業改善の在り方
 - ・成果が見える校内研究会への転換



5 今後に向けて

今年度の全国学力学習状況調査の結果を受け、10月に新しい指導改善プランを作成した。思考の整理・可視化と振り返りの場面を焦点化し、質問紙の「仲間と話し合う活動を通して考えを深めたり広げたりすることができましたか」「授業の最後に振り返る活動をよく行っていたと思いますか」の項目を指標とし、今年度の取り組みの成果の検証を行いたいと考える。また、集団育成チームから、生徒アンケートをレーダーチャートに示し、生徒自身に成果と課題が見えるようにする、という提案があった。生徒自身が学習目標を達成するためのPDCAサイクルを意識できるようにしたいと考える。

「私の教育実践」

子どもたちの力を引き出せるよう

肥田小学校附属幼稚園 教諭 栗木 美紀代

子どもたちは自分で意思決定し行動していくことで、こちらが驚くほどの大きな力を発揮することが出来ます。そういった力を引き出すために「子どもたちと一緒に話し合っ決めて」ことを大切にしています。決められたことではなく、子どもたちで話し合い「自分達で決めた。」という意識を持つことで、とても意欲的になります。

資材遊びを楽しんでいる子ども達の姿から、楽しんでいる遊びを通してもっと思いや考えを出し合い、お互いに刺激し合っ友達とのかかわりを深めて欲しいと思い、クラスで「街」作りを行うことにしました。子ども達同士で思いや考えを出し合えるような場を作ったり、友達同士で刺激し合えるようにお互いの思いを知らせたりすることで、「次はこうしてみたい。」「自分ならこうする。」

など考えを出すようになり、友達同士で次々とアイデアを出しながら、意欲的に遊びを進めていく姿が見られるようになりました。

何日も継続してクラスで制作してきた「街」が段々と出来上がって来ると、「良い街になったね」「嬉しいね。」と友達同士で喜び合っていました。友達と意見を出し合っ制作してきたことで、一緒に活動するよさに気付き、思いや考えを出して取り組んできたことで、「自分達で作あげた」という満足感を味わうことが出来たと思います。

子ども達から考えを出し合えるように、子どもたちの力を引き出せるように、教師も一緒に作り上げていくことで、充実感や達成感が生まれます。これからも子ども主体の保育をしながら、共に育ち、共に学んでいきたいと考えています。

「私の教育実践」

学び合う力を育てる

妻木小学校 教諭 高津 宏尚

本校の研究主題は、「学び方を身に付け、主体的に学び合う子」である。児童の実態として、学習に集中して取り組み、全体としては基礎学力が向上してきたというよさがある。しかし、全国学力調査の結果では、学力に二極化の傾向があり、算数で思考力や表現力に弱さが見られた。

誰もが授業に参加できた充実感をもつこと、二極化を改善することを目指して、「学び合い」に力点を入れた実践を行った。

そのために、普段の授業の中からできるだけ仲間同士で学び合う場を設定し、多くの仲間の考え方に触れることを大切にしている。学び合う場としては、班などの小集団交流や全体交流の場などを設定している。学び合いの場を設定することで、学習が苦手な児童にとっては、学級の仲間から直

接教えてもらうことができる機会となる。また、相手の伝えたいことを理解したり自分の考えを説明したりする力の向上にもつなげていくことができる。本校には「お話し④⑤⑥⑦⑧⑨」という合言葉がある。④は、「ちがって」、⑤は「いれて」、⑥は「むかって」、⑦は「あわせて」、⑧は「くらべて」を表し、この合言葉をもとに学年ごとに段階的な学び合いの実践を行っている。

この中で私が特に力を入れているのは「いれて」である。これは、仲間が話したことを理解した上で必要な部分を自分の考えに取り入れることだ。少しずつだが、子どもたちの中に自分の考えと仲間の考えを比べて聞き、話に取り入れることができるようになってきた。こうした姿を価値付け、学力向上を図っていきたいと考える。

「みんな大変なんだよ。」と「ペンギン」

濃南小学校 教頭 水野 浩庫

私の楽しみの一つが、朝日新聞の「折々のことば」を拝読することだ。様々な方が各々の視点で発する「ことば」は、さわやかな気持ちにさせられたり「なるほど」と考えさせられたりする。その中の一つ、仙台市の「武田愛さんの母」の「ことば」は、私の心の奥底まで浸透した。

「知らなかった？お父さんは花粉症だし、お母さんはちくのう症だし、アイちゃんはダウン症。みんな大変なんだよ。」(2017.8.25 朝日新聞)

小学校に通う娘から、自分はダウン症なのかとたずねられ返した母の言葉である。「みんな大変なんだよ。」の中で「みんな同じなんだよ。」と伝えているように感じた。さりげなく易しい言葉から深い愛情と強さを感じ、胸が熱くなった。

先日、本校で外国語活動の交流授業が行われた。

交流学級に来ていたのは、自分の思いを表現することが苦手で、自信のない表情が印象深い児童である。この日は自分から手を挙げ、堂々と「ペンギン」と発表していた。先生の話をよく聞いていた証拠が「ペンギン」ではなく「ペンギン」に現れていた。今何をやったらいいのかが「分かる」。仲間が温かく「認めて」くれる。学校で大切にされている、当たり前なのが「ペンギン」という発表の自信へと結びついたと感じた。

今ある笑顔に至るまでには、本人の葛藤・支援者の苦悩など、傍からは分かりにくい道のりがあったに違いない。「みんな大変なんだ。」だから、お互いを分かり合い深い愛情と信頼関係があれば、「ペンギン」と笑顔になれる。標題の二つの言葉が、私に改めて教えてくれた。

掲 示 板

～おめでとうございます～

◇第61回岐阜県児童生徒科学作品展

《最優秀賞》渡邊 颯翔(土岐津小6年) 作品『蚊を防ぐためにできる事』

《優秀賞》宮地 利奈(土岐津小2年) 作品『しゃぼん玉の研究Ⅱ ～ストローをくふうして、「りょうくん大しゃぼん玉」をつくって、弟をニコニコにさせよう!～』

《入選》渡邊 徠夢(土岐津小3年) 佐々木 拓夫(泉西小4年) 小嶋 修羽(土岐津小6年)
岩本 実花(土岐津中1年) 塚本 日菜詩(肥田中2年) 後藤 萌那(駄知中3年)

◇第17回社会科課題追求学習作品展

《最優秀賞》内海 沙彩(土岐津小3年) 作品『どうしてきゅう食に土岐市さんの食ざいを使っているのだろう。』

◇2017年岐阜県発明くふう展

《発明協会会長奨励賞》柳生 泰杜(妻木小4年) 作品『円測定器』

《奨励賞》大島 千空(泉西小5年) 安藤 耕平(西陵中1年)

